

安 全 デ ー タ シ ー ト (SDS)

作成 2001年 11月 13日
最終改訂 2021年 7月 21日

1.【化学物質等及び会社情報】

製品

製品の名称 アルタン ケースフレッシュ

供給者情報

会社名 アルタン株式会社

住所 東京都大田区東糞谷3-11-10
マーケティング室 開発企画課

電話番号 03-3743-5705

FAX番号 03-3743-5706

緊急連絡先 同上

2.【危険有害性の要約】

GHS分類

物理化学的危険性

引火性液体 区分3

健康に対する有害性

眼に対する重篤な損傷・眼刺激性 区分2B

生殖毒性 区分1A

特定標的臓器・全身毒性(単回ばく露) 区分3(麻酔作用、気道刺激性)

特定標的臓器・全身毒性(反復ばく露) 区分1(肝臓)、区分2(神経)

(注) 物理化学的危険性、健康に対する有害性、環境に対する有害性に関し、
上記以外の項目は、現時点で「分類対象外」、「分類できない」又は「区分外」である。

絵表示又はシンボル



注意喚起語 危険

危険有害性情報

引火性の液体および蒸気
眼刺激
生殖能または胎児への悪影響のおそれ
呼吸器への刺激のおそれ
眠気やめまいのおそれ
長期又は反復ばく露による肝臓の障害
長期又は反復ばく露による神経の障害のおそれ

注意書き 【安全対策】

使用前に取扱説明書入手すること。
すべての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。
熱、火花、裸火、高温のもののような着火源から遠ざけること。ー禁煙。
容器を密閉しておくこと。
涼しいところに置くこと。
容器を接地すること/アースをとること。
防爆型の電気機器、換気装置、照明機器を使用すること。
火花を発生させない工具を使用すること。
静電気放電に対する予防措置を講ずること。
ミスト、蒸気、スプレーを吸入しないこと。
取り扱い後は手をよく洗うこと。
この製品を使用する時に、飲食または喫煙をしないこと。

屋外または換気の良い区域でのみ使用すること。
 保護手袋、保護眼鏡、保護面を着用すること。
 指定された個人用保護具を使用すること。

【救急処置】

皮膚(又は毛髪)に付着した場合 直ちに、すべての汚染された衣類を脱ぐこと、取り除くこと。

皮膚を流水/シャワーで洗うこと。

吸入した場合

空気の新鮮な場所に移動し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。

気分が悪い時は医師に連絡すること

眼に入った場合

水で数分間注意深く洗うこと。コンタクトレンズを容易に

外せる場合には外すこと。その後も洗浄を続けること。

医師の診断/手当てを受けること。

ばく露またはその懸念がある場合

医師の診断、手当てを受けること。

目の刺激が持続する場合

医師の診断、手当てを受けること。

気分が悪い時は、医師の診断/手当てを受けること。

火災の場合

消火のために大量の水噴霧、またはアルコール用の消火器を

使用すること。

【保管】

容器を密閉して涼しく換気の良いところで施錠して保管すること。

【廃棄】

内容物や容器を、都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に業務委託すること。

国/地域情報

国内法で規定のある場合、並びに、地域で規定のある場合はその規定に従う。

3.【組成・成分情報】

単一製品・混合物の区別 混合物

成分及び含有量

化学名	含有量(wt%)	CAS No.	化審法番号	労働安全衛生法	PRTR法
エタノール	20%以下	64-17-5	(2)-202	通知対象物質	非該当
界面活性剤	10~20%	—	—	通知対象外物質	非該当
グリセリン	—	56-81-5	(2)-242	通知対象外物質	非該当
pH調整剤	—	—	—	通知対象外物質	非該当
精製水	—	—	—	通知対象外物質	非該当

4.【応急処置】

目に入った場合 水で数分間注意深く洗うこと。コンタクトレンズを容易に外せる場合には外すこと。

その後も洗浄を続けること。医師の診断、手当てを受けること。

眼の刺激が続く場合は、医師の診断、手当てを受けること。

皮膚に付着した場合

直ちに、すべての汚染された衣類を脱ぐこと、取り除くこと。

皮膚を流水/シャワーで洗うこと。

吸入した場合

空気の新鮮な場所に移動し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。

気分が悪い時は医師に連絡すること

飲み込んだ場合

水でよく口の中を洗浄した後、コップ数杯の清水を飲ませ希釈し、可能であれば吐き出させ、ただちに医師の手当てを受ける。ただし、意識がない場合は、口から何も与えてはならない。

また、吐かせようとしてはならない。直ちに医師の手当てを受ける。

急性症状および遅発性症状のもっとも重要な兆候症状

吸入: 咳、頭痛、疲労感、嗜眠

皮膚: 皮膚の乾燥

眼: 発赤、痛み、灼熱感

経口摂取: 灼熱感、頭痛、錯乱、めまい、意識喪失

5.【火災時の措置】

消火剤 水、炭酸ガス、粉末、泡(耐アルコール)

使ってはならない消火剤

棒状注水

消火方法

初期の火災には、大量の水噴霧、または粉末、炭酸ガスなどの消火器による消火を行う。大規模火災には、耐アルコール泡消火剤を用いて空気を遮断する。

6.【漏出時の措置】

人体に対する注意事項、保護具および緊急時措置

関係者以外の立ち入りを禁止する。

高濃度の上記にさらされないように保護眼鏡、適当な保護具を着用する。

環境に対する注意事項

流出した製品が河川などに排出され、環境への影響を起こさないように注意する。

大量の水で希釈する場合は、汚染された排水が適切に処理されずに環境へ流出しないように注意す

封じ込めおよび浄化の方法および機材

少量の場合には、こぼれた場所を速やかに大量の水で洗い流す。

大量の場合には、漏出液を密閉式の空容器にできるだけ回収し、回収できなかった場所を大量の水で洗い流す。

二次災害の防止策

浸透性および揮発性があるので、付近の着火源となるものは速やかに取り除く。

7.【取り扱い及び保管上の注意】

取扱い

技術的対策

「8.ばく露防止及び保護措置」に記載の設備対策を行い、保護具を着用する。

局所排気・全体排気

「8.ばく露防止及び保護措置」に記載の設備対策を行い、換気に注意する。

安全取扱注意事項

「10.安定性及び反応性」も参照すること。

みだりに火気その他点火源となる恐れのあるものに接近させ若しくは注ぎ、蒸発させ、または加熱しないこと。

容器を転倒させ、落下させ、衝撃を加え、または引きずるなどの取り扱いをしてはならない。

取扱いおよび保管施設の電気設備は全て防爆構造とし、アルコール流動その他によって静電気を発生させる恐れにある場所にはこれを有効に除去する装置を設けること。

取り扱う設備のある場所を常に整理整頓し、その場所に可燃性のもの、または酸化性のものを置かない。

接触回避

炎、火花または高温体との接触を避ける。

保管

安全な保管条件

火気その他危険な場所から遠ざけ通風をよくし、温度、湿度、遮光に注意し、暗所に保管する。

8.【暴露防止及び保護措置】

管理濃度	エタノール100%の場合		設定なし
許容濃度	エタノール100%の場合	日本産衛学会 ACGIH	設定なし(2009年版) STEL 1,000ppm(2009年版)

設備対策

ミストが発生する場合は発生源の密閉化

保護具・呼吸器の保護

必要に応じて、有機ガス防毒マスクを着用する。

目の保護

必要に応じて、保護眼鏡を着用する。

皮膚・身体の保護

必要に応じて、ゴム手袋・安全靴・帯電防止保護衣を着用する。

9.【物理的及び化学的性質】

状態	液体		
色調	淡黄色透明		
臭気	特有の芳香		
味	やけるような味		
沸点	データなし	エタノール100%の場合	78.32°C(101.325kPa)
融点	データなし	エタノール100%の場合	-114.15°C
蒸気圧	データなし	エタノール100%の場合	5,878Pa(20°C)
蒸気密度	データなし	エタノール100%の場合	1.59
比重	0.8991~0.9063(15°C)		
pH	該当せず		
引火点	データなし	エタノール100%の場合	13.0°C
発火点	データなし	エタノール100%の場合	439.0°C
爆発限界	データなし	エタノール100%の場合	空気中で下限3.3vol%~上限19.0vol%
蒸発速度	データなし		
オクタノール/水分配	データなし	エタノール100%の場合	-0.30(logPow)
分解温度	データなし		

溶媒に対する溶解性	水、エーテルによく溶ける
粘度	データなし エタノール100%の場合 1.0826mPa・s(25°C)

10.【安定性及び反応性】

化学的安定性 通常の取り扱い条件においては安定であり、危険有害な分解生成物は発生しない。

危険有害反応可能性

硝酸、硝酸銀、硝酸水銀、過塩素酸マグネシウムなどの強酸化剤と激しく反応し、火災や爆発の危険をもたらす。

ある種のプラスチック、ゴム、被膜剤を侵す。

避けるべき条件

高温へのばく露

混触危険物質 強酸化剤

危険有害な分解生成物

情報なし

11.【有害性情報】

急性毒性

経口 原料の加算式判定により区分外とした。

経皮 データ不足により分類できない。

吸入(蒸気)

原料の加算式判定により区分外とした。

吸入(ミスト)

データ不足により分類できない。

皮膚腐食性及び皮膚刺激性

原料のカットオフ値判定により区分外とした。

眼に対する重篤な損傷/眼刺激性

原料のカットオフ値判定により区分2Bとした。

呼吸器感作性または皮膚感作性

データ不足のため分類できない。

生殖細胞変異原性

データ不足のため分類できない。

発がん性

データ不足のため分類できない。

生殖毒性

原料のカットオフ値判定により区分1Aとした。

特定標的臓器毒性(単回ばく露)

原料のカットオフ値判定により区分3(麻酔作用、気道刺激性)とした。

特定標的臓器毒性(反復ばく露)

原料のカットオフ値判定により区分1(肝臓)、区分2(神経)とした。

吸引性呼吸器有害性

データ不足のため分類できない。

12.【環境影響情報】

水性環境有害性

急性 原料のカットオフ値判定により区分外とした。

慢性 原料のカットオフ値判定により区分外とした。

オゾン層への有害性

データ不足のため分類できない。

残留性・分解性

エタノール100%の場合

理論酸素要求量

2.1mg/l

BOD₅

0.93~1.67mg/L

COD

1.99~2.11mg/L

バクテリア硝化能の抑制

4,100mg/Lでニトロソモナス種のアンモニア酸化の50%抑制

生体蓄積性

データなし

土壌中の移動性

データなし

13.【廃棄上の注意】

残余廃棄物

廃棄においては関連法規ならびに地方自治体の基準に従うこと。

都道府県知事などの許可を受けた産業廃棄物処理業者、もしくは地方公共団体がその処理を行っている場合には、そこに委託して処理する。廃棄物の処理を委託する場合、処理業者に危険性、有害性を十分告知の上処理を委託する。

汚染容器および包装

清浄にしてリサイクルするか、関連法規並びに地方自治体の基準に従って適切な処分を行う。
 使用後の容器または配管などを廃棄処分するときは、内容物を水洗してから処理する。
 取扱いおよび保管上の注意の項の記載による他、引火性液体に関する一般的な注意事項による。

14.【輸送上の注意】

取扱い及び保管上の注意の項の記載に従う。
 運搬に際しては容器を40℃以下に保ち、転倒、落下並びに損傷がないように積込み、荷崩れの防止を確実にを行う。

国連分類	クラス3(引火性液体)
国連番号	1987 アルコール類
国内規制	
航空法	規則194条 3 引火性液体(引火点60.5℃以下)
港則法	規則12条 危険物告示別表 引火性液体類(高引火点引火性液体)
海洋汚染及び海上災害の防止に関する法律	
	施行令 別表第1の2 13 有害でない物質

15.【適用法令】

労働安全衛生法	施行令 別表第1 危険物 4.引火性の物(エタノール) 施行令 別表第9 名称等を通知すべき有害物(エタノール)
危険物船舶運送及び貯蔵規則	引火性液体類(高引火点引火性液体)

本品はエタノールを含有するが、濃度が60重量%未満のため、平成元年3月1日消防危第14号・消防特第34号の通知により消防法における危険物には該当しない。

16.【その他の情報】

記載内容の問い合わせ先	アルタン株式会社
住所	東京都大田区東糀谷3-11-10
担当部門	マーケティング室
電話番号	03-3743-5705
FAX番号	03-3743-5706

改訂履歴

作成	2001年 11月 12日
改訂	2002年 5月 30日
改訂	2011年 1月 27日
改訂	2015年 1月 5日
改訂	2015年 8月 10日
改訂	2016年 1月 14日
改訂	2018年 11月 8日
最終改訂	2021年 7月 26日

参考文献

財団法人バイオインダストリー協会 アルコールハンドブック第9版(1997)
 社団法人日本化学会編 化学便覧(改定4版) 丸善(1993)
 化学工業日報社 13700の化学商品
 化学工業日報社 国際化学物質安全性カード(ICSC)日本語版第3集(1997)
 平成元年3月1日消防危第14号、消防特第34号
 「危険物の規制に関する政令等の一部を改正する政令等の施行について」

注意

- ・この情報は新しい知見及び試験等により改正されることがあります。
- ・記載内容は現時点で入手できた資料や情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確さ、完全性を保証するものではありません。
- ・注意事項は通常の取扱いを対象としたものですが、特別な取扱いをする場合には、新たな用途・用法に適した安全対策を講じた上で実施願います。
- ・すべての化学品には未知の有害性があり得るため、取扱いには細心の注意が必要です。
- ・ご使用者各位の責任において、安全な使用条件を設定くださるようお願い申し上げます。